

平成 24 年 11 月 1 日発行  
第 174 号

# 康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel:(0548)32-0701 緊急用:090-1758-1712 Fax:(0548)32-1280

## 榛南の「緊急停止事態」即刻処す“事”～「組織の義」《その 》～

“尖閣諸島・竹島の領有権”隣国との問題、これを日本国が「当事者とし」「確」と対峙する“事”無く、「外部に依存・米国の助けを求め」、これは“常識外”在り得無い“事”。“病”も同じ、特に“生活習慣病・糖尿病”では“本人が「自覚を持ち 処す姿勢”、これが無ければ“医療人に出来る事”ほとんど無き現実”。中部電力浜岡原子力発電所から約60km 愛知県で最も近い豊橋市「原発事故発生時の受け先となる可能性を考え」「住宅の提供”や“ヨウ素剤の準備”など検討を進めていく[2012.10.24.日経夕刊]との報道。“2009.4.6.イタリア中部地震”ラクイラの地裁はこの6日前「大地震に結び付く可能性は低い」の報告これが“安全宣言”のように報道、「避難しない住人309人が死亡した」と、学者ら被告に求刑4年を上回る“禁錮6年の実刑判決”が言い渡された。“伊”というお国柄、上級審の行方は予断を許さない。

榛南の郡部人口3万の吉田町、田村典彦町長[第76回睦会[2008(平成20).4.16.開催]]の席で自ら“話”された。私はこの内容[康寿診報第130号参照]に対し「地方自治トップの「医療に対する考え方」この姿勢に率直に再考を求めた。これ「以来一切の“事”に応じず、無言・隠蔽を決め込む姿勢」、私はこの後も4年半に亘り何百回に及びアクセスした。地方自治の“長”はじめ「トップは「確執で意地を張る」こと無く、「住民第一」で、“第一義”に““事”を成す姿勢”を示すべき。現在の“時勢”「原発から半径20km圏内でヨウ化カリを備蓄せぬ地区」「吉田町」の現実、多くの事に「一刻も早く訂正”を求め言動し「成すべき義”を成して」いただく。

平成24年10月19日(金) 榛原医師会連絡協議会二区会[=吉田・榛原の会]が医師14人が参加し 静波“松徳庵”で執り行なわれた。会長高木平氏からの挨拶「特別に議論する事は在りません」から始まったこの会、懇親の席が一時間余り経過し会長に「吉田町のヨウ化カリ備蓄の状況”につき問うた。これに対し高木平氏「吉田町最近はどうなんでしょうか...、“備蓄されていないと思います”けどねえ...」の“話”。過去一年機会ある度に「田村典彦町長に「連絡を取り確かめて下さい」「電話一本”掛けられない?」ですか」と問い続け、「交渉事・話し合い”を成さ無いで「地方医師会の立ち位置は語れない・在り得ない」と申し上げて来た。にも関わらず、高木平会長は「牧之原市等は備蓄しているけども、国の「いつ配られいつ飲ませるか」の基準を国が出していない」から“備蓄していても意味が無い”んですよ...」の“論”この繰り返し。更に会長を“代弁”し「国が基準を出さなくてはダメだ、だから「備蓄しても意味が無い」と言い切る私と同年代 吉田町に私と同じ糖尿病専門として数年前新規開業の千正鎭氏の言動。「国・県等上からの“指示が無い”」からと我が医師会の管轄する「地域住民を見殺し」にしてよいのか?」という問題が“確”と討議されない。“平和ボケ”というか「指示待ち症候群」を語りお上の責任”で済ませ「集積された“Negative思考”“歩みの無い情況”を知る。「緊急事態の際“国の批判は無意味”」であれば「医師団の在る“意”の判断“英断”で““事”を動かす・成す」「いきる“事”」。」「備え無く”住民の“命を奪う”事態」「事の前”に思い知る必要性」。また千氏に対し同業である以上、メタボ健診等必要に応じ「意見を“擦り合わせ”」「“事”の業務を含め・絡め」、我が管轄この地区を「生活習慣病という観点”患者さんの立ち位置”から“先進医療地区とし語れる”」よう力を尽すと約束する。この為には「“確”と意見を出し“討論の場”」が必至、「避けて“事”は成さぬ」と痛い程“感”する。加藤寿夫

## 第 85 回睦会の報告

先月 10 月 6 日に第 85 回睦会を開催しました。今回は加藤内科医院 2 階の講義室で齋能千夏さんをお招きし、お話を伺いながら患者さん同士、楽しく交流を持つ時間を過ごしました。

### さいのうち か 齋能千夏さんプロフィール



静岡市在住の齋能千夏さんは、小学 2 年生の時、1 型糖尿病を発症しました。大学では、栄養学を学び、管理栄養士の資格を取得されました。管理栄養士として勤務された後、現在は、専門学校で鍼、灸、あんま、マッサージとアスレチックトレーナーについて勉強されています。

また、ご自身の体験を生かし、サマーキャンプのスタッフとしてボランティア活動をされています。今回その活動が認められ、ガリクソン賞を受賞されました。

\*「サマーキャンプ」とは、静岡県つばみの会主催で、小児糖尿病患者やその家族、医療スタッフなどが参加して行うキャンプです。

\*「ガリクソン賞」とは小児期発症の 1 型糖尿病の患者さんで、一般社会、スポーツ、文化、科学、芸術などで活躍する方や、小児糖尿病キャンプスタッフとしての貢献の著しい方へ送られる賞です。この賞は、1 型糖尿病を患いながら、読売ジャイアンツで活躍したガリクソン選手の名前を冠し 1998 年に日本糖尿病協会が制定しました。



### 閉会の言葉



睦会代表  
静岡県糖尿病協会理事  
鈴木文夫様



### 来賓 田中彰様

静岡県糖尿病協会 前会長で、自らも糖尿病患者の田中さんです。糖尿病発症時は、奥様が作った糖尿病食を、「こんな物食べられるかっ！！」と、星一徹のようにちゃぶ台をひっくり返した経験があるとか……。食事療法を指導する管理栄養士が大っ嫌いだったという事です。

PS.糖尿病協会の仕事をしてから、管理栄養士が手伝いをしてくれ、今では大好きだそうです。よかった(^)/

### 開会の言葉



### 睦会会長 杉山富三男様

加藤医院では、最長老の患者さんです。昭和 44 年 12 月 7 日に糖尿病と診断され、インスリンを打つために毎日通院されました。当時は、インスリン注射は、医師しか打つことができない時代だったそうです。お酒が大好きでお酒の瓶を抱えて通院されていたそうですが、お酒をやめるように言われ、きっぱり禁酒したということです。真面目な患者さんなので、84 歳の今でもお元気に通院されています。

睦会の会長として、患者会の活動にはご尽力いただいています。これからもよろしく願います。

## グループワーク

齋能さんは、糖尿病を 8 歳で発症されたので辛いことも多かったとおっしゃっていました。今では、1 型の小児糖尿病の患者さんは、食べた分だけインスリンを打てばいいよという食事療法が主流ですが、昔は、食べ物の制限が厳しく、給食で揚げパンが食べられなかったり、低血糖予防のため、休み時間に無理におにぎりを食べなければならなかったそうです。

今回参加された患者さんは、2 型の糖尿病患者さんばかりでしたが、食事での辛いこと、悩みについて患者さん自身の体験をふまえ、話し合いました。

友人や、親戚の集まる宴会で、みんな楽しくお酒を飲んだり、豪華な食事をしています。もし、あなたも、お酒や食事を勧められたらどうしますか？

- ・ 周りに病気のことを話し、理解してもらえば、無理に勧められないし、料理を残しても文句を言われぬ。
- ・ どうしても断れないときは、飲んだふりをする。
- ・ 自分が盛り上げ役になる。
- ・ 病気のことを理解してもらっているので、宴会の最初は顔を出すが、途中で帰らせてもらう。
- ・ 数か月に 1 回の事なので、ご褒美の日として全部食べる。
- ・ 宴会の日は、仕方がないので食べるが、それ以外の日は節制する。
- ・ 食べ物の制限は、ストレスになり余計病気を悪くしそうなので全部食べる。

齋能さんは、ずっと 1 型糖尿病ということを開明にしてきたそうです。齋能さんが子供の頃は、まだ 1 型糖尿病をなかなか理解してもらえず「糖尿病 = 贅沢病」という偏見もあったようです。からかわれたり嫌な思いをすることもあり、1 型糖尿病の子供達の中には、病気のことを隠している人も多かったそうです。就職の時には不利になるかもしれないという思いもありますし、逆に、低血糖で倒れた場合は、周囲の人が知っていれば、すぐ対処してもらえするという安心感もあり、糖尿病であることを公表することにはメリット、デメリットがあります。

加藤医院の患者さんも、周囲の人に糖尿病という事をオープンにしている人も内緒にしている人もいます。そのご苦労は、患者さんからよくお話を伺います。参加した人で話し合ってみました。

病気のことをオープンにしているか？そのメリット、デメリットについて

- ・ オープンにしているので、宴会も 30 分 ~ 1 時間くらいで退席させてもらう。メリットは、お酒を飲まないで、タクシー代や代行代がかからなくて済む。デメリットは、お酒を飲まなくても、料理を残しても同じ代金を払わなければならない。(男性・会社員)
- ・ 会社でもオープンにしているが特に支障はない。宴会は自分で食べる量をコントロールする。(男性・会社員)
- ・ 数か月に 1 回のお友達との食事会は、ご褒美の日としておいしく食事をいただく。お友達には内緒にしているが、食前に必ず薬は飲むようにしている。袋から出して持っていくので、何の薬かといちいち聞かれることはない。(女性・主婦)
- ・ デメリットは世代によって違って来る。これから就活という人は、病気のことを公表することをためらうのではないか。
- ・ 病気を公表すると、気を使って誘ってもらえなくなるのではないか。という不安がある。

齋能さんのお話のもと、患者さんとスタッフと楽しく意見交換ができました。どれが正しい、間違いという答えはないと思います。

参加できなかった皆さんも、自分だったらどうするかを考えてみましょう。参加された皆さんのご意見を、参考にしてみてください。



## 《HbA<sub>1c</sub>の変更について》

本院では 2012.10.1.より 院内での表示は 今まで用いていた JDS 表示 から NGSP 表示 に 変更 します。

これにより 従来の値より 0.4 程度 高い値 で表示されます。



・JDS [=Japan Diabetes Society:日本糖尿病学会値]

・NGSP [=National Glycohemoglobin Standardization Program:国際標準値]

特定健診 いわゆるメタボ健診では 来年 2013.3.31.までは JDS 表示で示されます。本院受診時には これらもすべて NGSP に直して 表示します。

## 《インフルエンザ ワクチン 予防接種のお知らせ》

今年度もインフルエンザ ワクチンの予防接種実施中です。

本院の 接種料金は 一回目 ¥3000 二回目 ¥2000 です。

小学生まで(12 歳以下)の子供さんは 原則 2 回接種です。

65 歳以上の方は、町・市の補助があり、各町・市の手続きの上、接種していただくと助成の対象となります。

## 《看護師(若干名)募集のお知らせ》

応募/電話にて連絡(0548-32-0701)の後 履歴書(写真添付)を連絡先を明記して 本院へ郵送して下さい。

## 《臨時休診のお知らせ》

お薬を切らさないように 気を付け下さい。

11 / 2 (金)・24(土)、12 / 3 (月)・25(火)・29(土)

来年 2013 年 1 / 2 (水)・3 (木)・4 (金)・5 (土)・28(月) は 臨時休診です。 12 / 31(月)は 当番医です。